

第4回三重県海岸保全基本計画検討委員会技術部会 議事要旨

日時:令和7年2月27日 13時30分～

場所:三重県勤労福祉会館

地下1階 特別会議室

委員会の主な意見は以下のとおりでした。

3. 気候変動を踏まえた設計津波(L1津波)水位の検討結果

- 気候変動前後の水位差が局所的に大きくなる地域海岸について原因を教示願いたい。
(事務局回答)津波が集中しやすい地形的特徴や構造物による影響、その他の要因によって、一部の地域海岸では津波の水位増分が他の地域海岸と比較して顕著に大きくなったと分析している。
- 気候変動前後の水位差が局所的に大きくなる地域海岸は、注意書きに記載されている収斂部等による特異点とは異なる現象か。
(事務局回答)異なる現象である。誤解を招くことがないように表現の仕方を再考する。
- 地域海岸ごとの設計津波水位の検討結果表は、最終的な結果となるか。
(事務局回答)現在の検討結果表には各地域海岸の代表値を示している。特異点に関するデータの表示方法は、より明確になるよう再検討する。

5. 段階的な整備方法の検討

- 検討結果とりまとめの前提条件が別々の資料に分散しており理解しづらい。条件を明確に示すべきである。
(事務局回答)資料の表現をより分かりやすく修正する。
- 段階的な整備の目標設定は、状況ごとに分けて記載したほうが適切である。
- 設計高潮位の時間的变化は小さいが、その構成要素である海面上昇と高潮・波浪の増大はそれぞれ信頼度が異なる。信頼度に注目することも留意点として検討すべきである。
- 現時点でも必要天端高が不足している海岸があり、背後地の状況や気候変動等を踏まえた段階的な整備が課題となる。海面上昇を見込めていない海岸は優先的に整備すべきであるが、一気に整備できなければ段階的な整備を考えなければいけない。多様な状況がある中で、県内で統一的な方針を示した上で整備を進めることが望ましい。
(事務局回答)県内には6つの管理者があり、それぞれ所管する海岸によって事情が異なるため、県土整備部として設計指針を作成し、設計外力の考え方を取りまとめる。約半年後に設計外力を切り替える予定であるが、整備中の海岸や必要天端高が不足している海岸もあるため、適用方法については複数の方向性を示し、判断材料を提供したいと考えている。

- 信頼度を数値的に評価することは難しく、特に波浪の上昇度は不確実性が大きい。文部科学省の文献や IPCC 報告書などを参照し、信頼度を明示すべきである。
- 段階的な整備の検討取りまとめにおいて、隣接する海岸管理者や河川管理者との調整というキーワードを追加してほしい。

7. 海岸保全基本計画への記載内容(案)

- 高潮対策の目標において、気候変動に関する文言をより分かりやすい表現に修正してはどうか。
(事務局回答)ご指摘のとおり表現を修正する。
- 海岸侵食対策の目標が「現状の汀線を保持・保全する」と設定されているが、今後の海面上昇を考慮すると、この目標は実現が困難な高い水準になる可能性がある。この目標水準の高さについては十分に認識しておく必要がある。
- 将来予測に基づく計画は、予測自体が変化する可能性がある。必要に応じて計画を見直すことも重要であり、目標の見直しになるかは不明確だが、計画の見直しの可能性についても言及しておくべきである。

(事務局回答)適切な箇所に計画見直しの可能性に関する記述の追加を検討する。

以上